

コールセンターからの小さなよみもの

2019年2月28日

Vol.121

株式

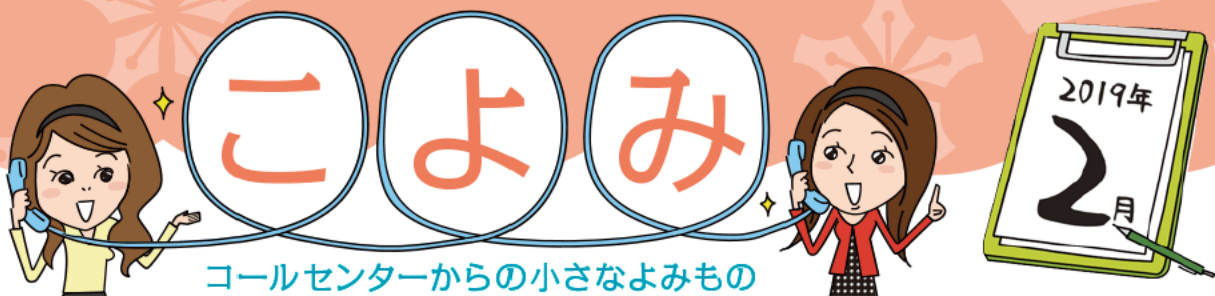
攻め時？ 守り時？

サッカーのポジションに攻めのフォワードと守りのディフェンスがあるように、株式にも‘攻めの銘柄’と‘守りの銘柄’と位置づけられるものがあります。

景気と株価の動きには、切り離せない関係があり、市場がどのように景気の動向を見ているかによって、攻めの銘柄が買われたり、逆に守りの銘柄が買われたりします。

そこで今回は、景気と選好される銘柄との関係について押さえていただきたいと思います。





企業の事業内容は多種多様であり、景気動向などによる業績への影響度合いにも違いがあります。

景気の波(サイクル)に合わせて業績が左右されやすい銘柄のことを「景気敏感株(シクリカル銘柄)」と呼びます。代表的な業種として、製品の部材となる鉄鋼などの素材や、設備投資関連の工作機械などが該当します。これらは、景気の好不調のサイクルに合わせて、株価が変動しやすいという特徴があります。景気が拡大するとモノが売れるため、モノを作るのに必要な素材やモノのパーツとなる部材、製造工程に必要な設備への投資が活発になるため、これらに関連する企業の株価は上がりやすくなり、逆に景気が縮小すると、これらの株価は下がりやすくなります。

また、景気の波に業績が左右されにくい銘柄のことを「ディフェンシブ株」と呼びます。生活に不可欠なモノやサービスを扱っていて、収益基盤が比較的安定している企業が属します。たとえば、食品や通信、医薬品などの業種があげられます。特に、国内向けに事業展開している企業の方が海外の景気に左右されない分、景気動向による影響がある程度限定されます。これらの企業は、景気が悪いときでも比較的業績が安定しており、守りに強いのが特徴です。

今後景気が拡大すると見込まれるときには景気敏感株が買われ、逆に景気が縮小すると予想される時にはディフェンシブ株が相対的に買われる傾向があります。2017年は世界的に景気回復への期待感が高まり、景気敏感株などを中心に、成長産業として期待される銘柄が買われる相場でした。2018年に入ってから、米中貿易摩擦の激化などが景気に及ぼす影響を警戒して、これまでの景気敏感株への期待が後退しました。その後も世界景気減速への警戒が拭えず、ディフェンシブ株が買われました。

このように、どのような業種が相対的に強いのか買われている銘柄に注目し、株式市場が景気の先行きをどう見ているか参考にしてみてもいいかもしれません。



nikko am



コールセンター

0120-25-1404

営業時間 平日 9:00~17:00